

小見川総合病院新改革プランの点検・評価
(令和2年度分)

香取市病院事業

経営指標に係る数値目標

項目			令和2年度		目標達成率 (%)	達成度	未達成の要因
			目標値	実績値			
経営 の 効 率 化	収支改善に係るもの	経常損益（百万円）	△ 326	△ 88	370.5	◎	
		経常収支比率（%）	90.6	96.5	106.5	◎	
		医業収支比率（%）	84.1	87.6	104.2	◎	
	経費削減に係るもの	医業収益対給与費率（%）＊	61.7	60.1	102.7	◎	
		医業収益対材料費比率（%）＊	24.8	25.0	99.2	○	特定の手技に必要な高額な診療材料の使用頻度が増加したため。
		医業収益対経費比率（%）＊	17.7	15.2	116.4	◎	
	収入確保に係るもの	1日当たり入院患者数（人）	82	77.1	94.0	○	コロナ病床確保により、一般病床数を制限したため。
		1日当たり外来患者数（人）	444	399.9	90.1	○	新型コロナウイルスの感染拡大により、受診患者が減少したため。
		病床利用率（%）	82.0	77.1	94.0	○	コロナ病床確保により、一般病床数を制限したため。（再掲）
		平均在院日数（日）＊	17.4	10.1	172.3	◎	
	経営の安定性に係るもの	常勤医師数（人）	9	5	55.6	△	地域事情などの理由から、確保が難しい。
医療機能等 指標に係る 数値目標	医療機能・医療品質に係るもの	救急患者数（人）	1,100	886	80.5	△	新型コロナウイルスの感染拡大により、救急患者の受診が減少したため。
		手術件数（件）	980	1,166	119.0	◎	
		訪問看護件数（件）	900	1,876	208.4	◎	
		リハビリ件数（件）	13,300	12,595	94.7	○	新型コロナウイルス感染予防対策により、対象患者の制限を実施したため。

※目標達成率(%)の算出方法は「実績値÷目標値」となります。ただし、(*)については「目標値÷実績値」となります。

数値目標に対する達成度

区分	評価の内容
◎	達成（目標達成率が100%以上の場合）
○	概ね達成（目標達成率が90%以上100%未満の場合）
△	未達成（目標達成率が90%未満の場合）

目標達成に向けた具体的な取組み

項目	具体的な取組内容	取組みに対する点検・評価
医師の確保	常勤医師を確保するため、医師の派遣を大学や県等へ継続して要望していく。様々な手法を検討する。	前年度に期限付きの常勤医師を確保することができたものの、本年度途中で当該医師退職後は常勤医師の確保に至らなかった。なお、人材派遣会社のコンサルティングにより非常勤医師を確保することで診療体制を維持できた。 また、本年度は新たな取組みとして千葉大学に分子病態治療学寄附講座を設置し、一時的な医師派遣契約ではなく中長期的な若手医師の研究キャリアとプライマリ・ケアスキルの修練をサポートする教育体制と人的循環体制の構築準備を行った。さらには、千葉大学医学部附属病院に臨床研修連携施設登録を行い、研修医の受入先医療機関としての役割を担うこととなった。
時間外救急体制の強化	常勤・非常勤医師を効果的に配置する。消防署、医師間の協力体制を構築する。	前年度に引続き総合的な診療を行える宿日直業務専属の非常勤医師を確保したことで、時間外救急の受入体制が強化できた。また、香取地域救急医療ネットワーク会議に参加し他施設と情報共有することで、当医療センターにおける課題の検討を行い対応策について協議した。
地域医療連携体制の強化	近隣病院や診療所と相互に情報交換を行い、効率的な医療提供体制を構築する。当病院と地域の病院や診療所の医療連携を深めていく。	地域医療支援室を窓口到他施設と情報を共有し、相互に柔軟な患者受入れを行った。また、香取市から受託した認知症初期集中支援業務の実施に当たり、医療センター内に認知症初期集中支援チームを設置し、ホームページや掲示及び職員に周知を行うとともに、介入が必要な対象（33ケース）には、自宅への訪問や外来受診を経て地域包括支援センター又は地域のケアマネージャーに繋ぐ介入を行った。
診療科目の検討	当病院で担うべき医療について地域医療環境を踏まえ診療科目等の検討を随時行う。	令和2年4月から形成外科を加え、標榜診療科目を13科目から14科目に見直すことで、他診療科との連携による医療の質の向上を図った。
病床利用率の向上	医師及び看護職員体制を整備する。効率的なベッドコントロールを行い、患者が速やかに入院できるように病床の効果的な運用に努める。	前年度に引続き病床の空床状況を一覧表化し、医師・看護師をはじめとする医療従事者が即座に把握できるよう各部署に随時周知した。また、県からの依頼による新型コロナウイルス感染患者の受入病床確保で一般患者が利用できる病床数が減少したため、東西2病棟間で連携を図り効率的なベッドコントロールに努めた。
診療報酬請求の適正化	診療報酬の改定に伴う施設基準の変更、加算可能な診療報酬上の認定に関する届出を迅速に対応する。	令和2年度診療報酬改定では、新たに算定可能となった施設基準の届出や制度改正により、改めて届出が必要なものについて速やかに対応した。なお、看護必要度の見直しに伴い、本年12月から入院基本料を6から上位の5に変更した。また、診療報酬改定の内容は外部研修資料等を活用し、職員間で情報共有を行い、特に病棟看護師と医事課職員とで勉強会を開催するなどして連携を深め、請求事務の適正化に努めた。

コスト削減の推進	材料費は値引率の有利なものを購入することはもとより、契約方法や発注方法等の見直しを行い効率的な購入をする。適正在庫量の設定、品目数の整理により適正管理に努める。 薬品は、可能な限り後発医薬品への切替えを速やかに行い薬品費の削減に努める。 業務委託は、業務内容の見直しにより外部委託の可能なものは移行するとともに、現在契約している業務の内容や仕様書の再点検を行い委託費の削減に努める。	材料及び薬品の適正管理に努めた。また、薬品については医師と協議し可能なものは後発医薬品へ切替えを進めている。 業務委託は、本年4月から患者等食事提供業務を外部委託し、前年度までは職員確保が非常に難しく運営に支障をきたしていたことが改善されたほか、食材の調達から管理までを委託することで給食業務全体の効率化を図った。また、賃貸借物件でリース満了後に使用可能なものについては積極的に再リースを行い経費の削減に努めた。
計画的な医療機器の整備	高度医療機器の購入や更新については、耐用年数、使用頻度、診療上の必要性等を考慮し計画的な整備を図る。電子カルテを導入し、業務効率と生産性、医療の質・効率化・安全性の向上を図る。	本年度は特に老朽化の著しい医療機器を計画的に更新した。なお、新型コロナウイルスの感染拡大に対応するため、補助金を有効的に活用しクリーンパーテーションや空気清浄機などの感染防止対策上、必要な機器を迅速に整備した。また、本年度は電子カルテ導入から2年が経過し、担当職員のシステム操作が向上したことで、システム機能を最大限に活かし、医療の質の確保や業務の効率化を図った。
人件費の適正化	患者数や医療提供状況に即した業務内容の見直しや職員定員適正化計画を策定し、業務に見合った効率的な人員配置に努める。再任用制度を積極的に活用する。	再任用制度の積極的な活用（新規5人）と、令和2年度から始まった会計年度任用職員制度を活用し、職員配置の適正化に努めた。また、地方独立行政法人化を見据えた職員定員適正化計画を検討している。
院内組織体制の改革	病院の建て替えに伴い、病床数が170床から100床に縮小する時期に合わせ、組織の見直しを行う。科の統合や管理職ポストの削減などを行い、病院の適正規模にあった体制への構築を図る。	新病院へ移行した令和元年度に組織体制の見直しを行ったことから本年度は未実施である。また、医療センターの規模に見合った職員配置については、引続き適正化に努めていく必要がある。
経営向上に向けた会議の実施	毎月、開催する「香取おみがわ医療センター運営連絡会議」において、経営状況の報告を継続して行い、職員一人ひとりの経営に対する意識の醸成を図る。経営に対して重要な事案や早急に判断が必要な案件については、病院長をトップとした幹部で構成される「経営会議」を設置し、迅速な対応を図れるよう行っていく。	医局会では市長を交え毎月1回の会議を開催し、経営等に対する協議、検討を重ねている。また、幹部職員による香取おみがわ医療センター運営連絡会議を毎月開催し経営状況を把握しているほか、必要に応じて事業管理者をはじめとした経営会議を行い、様々な課題に対応した。
人材育成による環境整備及び経営感覚に富む人材の登用	高質な医療提供をするために、職員の資格取得や研修の支援を行い、院内環境整備を図る。病院経営に精通した経営感覚に富む人材の登用を検討する。	引続き職員のスキルアップを目的とした資格取得や資格維持のために必要な研修の支援を行ったほか、中堅職員を対象とした香取広域市町村圏事務組合が実施する研修に参加した。また、全職員を対象とした医療安全研修を行い職員全体で共有した。